

秋田県埋蔵文化財センター一年報

28

平成21年度

2010・3

秋田県埋蔵文化財センター

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の
「岩偶」です。

縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

序

秋田県埋蔵文化財センターは、大仙市に総務班、調査班、資料管理活用班を、男鹿市に中央調査班を置いて本県埋蔵文化財の調査・研究、活用・普及を推進しております。

今年度は、国道282号交通安全施設等整備事業、一般国道7号鷹巣大館道路建設事業、地方特定道路整備事業一般県道富根能代線などに伴い7遺跡の発掘調査を実施いたしました。特に男鹿市小谷地遺跡の平安時代の堰、由利本荘市智者鶴遺跡の縄文時代後期の配石遺構、北秋田市大沢倉下遺跡出土のヒスイ製勾玉などが注目されました。

また、埋蔵文化財は県民共有の文化遺産であり、後世に受け継いでいくべきものとの考えに基づき、全県各地で遺跡見学会や報告会などを行いました。さらに、年2回の企画展や「ふるさと考古学セミナー」、県内各地の遺跡をめぐる「古代発見！バスツアー」など多くの活用・普及事業を実施するとともに、学校や社会教育関係機関とも連携し、教育・普及活動を積極的に推進しました。

本年報は、平成21年度に当センターが発掘調査を行った遺跡の概要と秋田県甘肅省文化交流事業及び埋蔵文化財の活用・普及事業などの諸活動をまとめたものであります。多くの方々に御利用いただくとともに、当センターの事業について一層の御理解と御支援をいただきますようお願い申し上げます。

平成22年3月

秋田県埋蔵文化財センター

所長 佐藤 了

目 次

序 目次

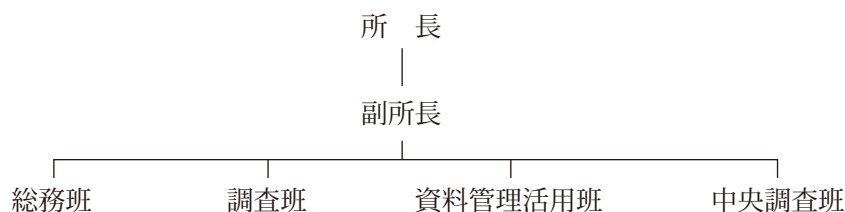
I	沿革	1
II	組織・施設	1
III	秋田県埋蔵文化財センター平成21年度の歩み	2
IV	事業の概要	3
1	発掘調査	3
2	確認調査	3
3	埋蔵文化財発掘調査	4
(1)	平成21年度秋田県内発掘調査遺跡	4
(2)	発掘調査概要	6
	湯瀬館跡	6
	折戸遺跡・大沢倉下遺跡	8
	前谷地遺跡	10
	小谷地遺跡	12
	上谷地Ⅱ遺跡	14
	智者鶴遺跡	16
4	刊行物一覧	18
5	平成21年度秋田県甘肅省文化交流事業	21
(1)	交流事業の概要	21
(2)	秋田県交流員の活動	22
①	活動の記録	22
②	交流員の感想	23
(3)	甘肅省交流員の活動	25
①	活動の記録	25
②	交流員の感想	25
6	活用・普及事業	26
(1)	平成21年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会	26
(2)	遺跡見学会	28
(3)	学校（教育）サポート	28
①	セカンドスクール	28
②	ボランティア・職場体験（インターンシップ）	29
③	高校授業サポート	29
(4)	主催事業	30
①	企画展	30
②	古代発見！バスツアー	32
③	平成21年度縄文発見・ワクワク体験	33
④	ふるさと考古学セミナー	34
⑤	出張展示	35
(5)	共催・機関連携等による普及事業	35
①	発掘！あきた考古ゼミ	35
②	土器に生ける山野草展	36
③	児童会館「歴史クラブ」	36
④	県庁出前講座	36
(6)	その他	37
①	古代体験キット・ビデオの貸し出し実績	37
②	センター施設の開放と展示	37
(7)	講演・研究論文等	37
7	運営協議会	40
V	平成21年度研修事業	41
VI	職員名簿	42

I 沿革

昭和55年2月	秋田県埋蔵文化財センター設立計画公表
昭和55年10月26日	建設工事開始
昭和56年8月31日	センター、第1収蔵庫完成
昭和56年10月1日	設置条例施行、職員発令、業務開始
昭和56年11月2日	落成記念式典挙行
平成5年1月	第2収蔵庫完成
平成10年4月2日	鷹巣町に秋田北分室開設
平成11年12月20日	秋田市に秋田整理室開設
平成12年4月4日	秋田整理室が秋田中央分室となる
平成13年4月2日	機構改革により南調査課、北調査課、中央調査課の3課体制となる
平成13年6月20日	秋田県甘肅省文化交流事業により交流員の相互交流開始
平成14年3月2日	秋田県埋蔵文化財センター設立20周年記念式典挙行
平成15年10月17日	秋田県甘肅省文化交流事業磨嘴子遺跡合同発掘調査開始
平成15年10月30日	センター屋根、外壁、内部大規模改修工事
平成17年4月1日	男鹿市に中央調査課男鹿整理収蔵室開設
平成20年3月31日	北調査課、中央調査課閉課
平成20年4月1日	機構改革により総務班・調査班・資料管理活用班・中央調査班の4班体制となる。

II 組織・施設

組織



施設の概要

本所（総務班・調査班・資料管理活用班）

所在地	〒014-0802 秋田県大仙市弘田字牛嶋20		
	TEL 0187-69-3331	FAX 0187-69-3330	
敷地面積			6,962.000㎡
本所建物	鉄筋コンクリート2階建		1,527.304㎡
第1収蔵庫	鉄骨造平屋建		360.000㎡
第2収蔵庫	鉄骨造平屋建		297.680㎡
電気・ポンプ室	平屋建		59.780㎡

中央調査班

所在地	〒010-0502 秋田県男鹿市船川港比詰字餅ヶ沢200		
	TEL 0185-23-2296	FAX 0185-24-6090	
敷地面積			55,521.000㎡
建物	鉄筋コンクリート3階建		7,524.360㎡

Ⅲ 秋田県埋蔵文化財センター平成21年度の歩み

(平成21年)

- 4月1日 平成21年度秋田県埋蔵文化財センター新任式
- 5月11日 横枕遺跡確認調査開始(～6/10)
- 18日 折戸遺跡発掘調査開始(～6/8)
- 30日 第1回企画展「古代城柵と蝦夷」開始(～9/27)
- 6月9日 大沢倉下遺跡発掘調査開始(～7/21)
- 11日 前谷地遺跡発掘調査開始(～7/30)
- 15日 湯瀬館跡発掘調査開始(～10/30)
- 22日 小谷地遺跡発掘調査開始(～11/6)
- 30日 秋田県甘肅省文化交流事業秋田県交流員 高橋和成文化財主事甘肅省へ出発
- 7月8日 第1回埋蔵文化財センター運営協議会
- 11日 第1回ふるさと考古学セミナー
- 13日 上谷地Ⅱ遺跡発掘調査開始(～9/9)
- 28日 縄文発見・ワクワク体験(～30日)
- 8月3日 第1回古代発見!バスツアー
- 17日 秋田県甘肅省文化交流事業甘肅省交流員来秋
楊 芳(受入先:埋蔵文化財センター) 朱 森平(受入先:県立博物館)
- 22日 第2回ふるさと考古学セミナー
- 30日 第1回企画展講演会(会場:大仙市仙北ふれあい文化センター)
- 9月4日 第2回古代発見!バスツアー
- 25日 秋田県甘肅省文化交流事業秋田県交流員 高橋和成文化財主事甘肅省から帰国
- 10月1日 月見堂館跡(～10/9)
- 10日 湯瀬館跡見学会
- 16日 第3回古代発見!バスツアー
- 17日 小谷地遺跡見学会
- 19日 深堰遺跡確認調査開始(～20日)
- 24日 第3回ふるさと考古学セミナー
- 26日 白館跡確認調査開始(～11/4)
- 30日 家ノ浦Ⅱ遺跡確認調査
- 30日 家ノ浦遺跡確認調査開始(～11/26)
- 11月7日 第2回企画展「亀ヶ岡文化ー縄文造形の華ー」開始(～2/28)
- 9日 前田表遺跡確認調査開始(～11/13)
- 15日 秋田県甘肅省文化交流事業甘肅省交流員 楊 芳、朱 森平 帰国
- 30日 北檜岡中野遺跡確認調査開始(～12/4)

(平成22年)

- 1月31日 第2回企画展講演会(会場:大仙市大曲中央公民館)
- 2月25日 第2回埋蔵文化財センター運営協議会
- 3月7日 平成21年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会(会場:大仙市大曲中央公民館)

IV 事業の概要

1 発掘調査

平成21年度に秋田県埋蔵文化財センターが行った各事業別の発掘調査は以下の通りである。

国土交通省関係

●一般国道7号鷹巣大館道路建設事業：折戸遺跡・大沢倉下遺跡

●一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業：上谷地Ⅱ遺跡

県関係

●国道282号交通安全施設等整備事業：湯瀬館跡

●地方特定道路整備事業一般県道富根能代線：前谷地遺跡

●地方道路交付金事業主要地方道男鹿琴丘線：小谷地遺跡

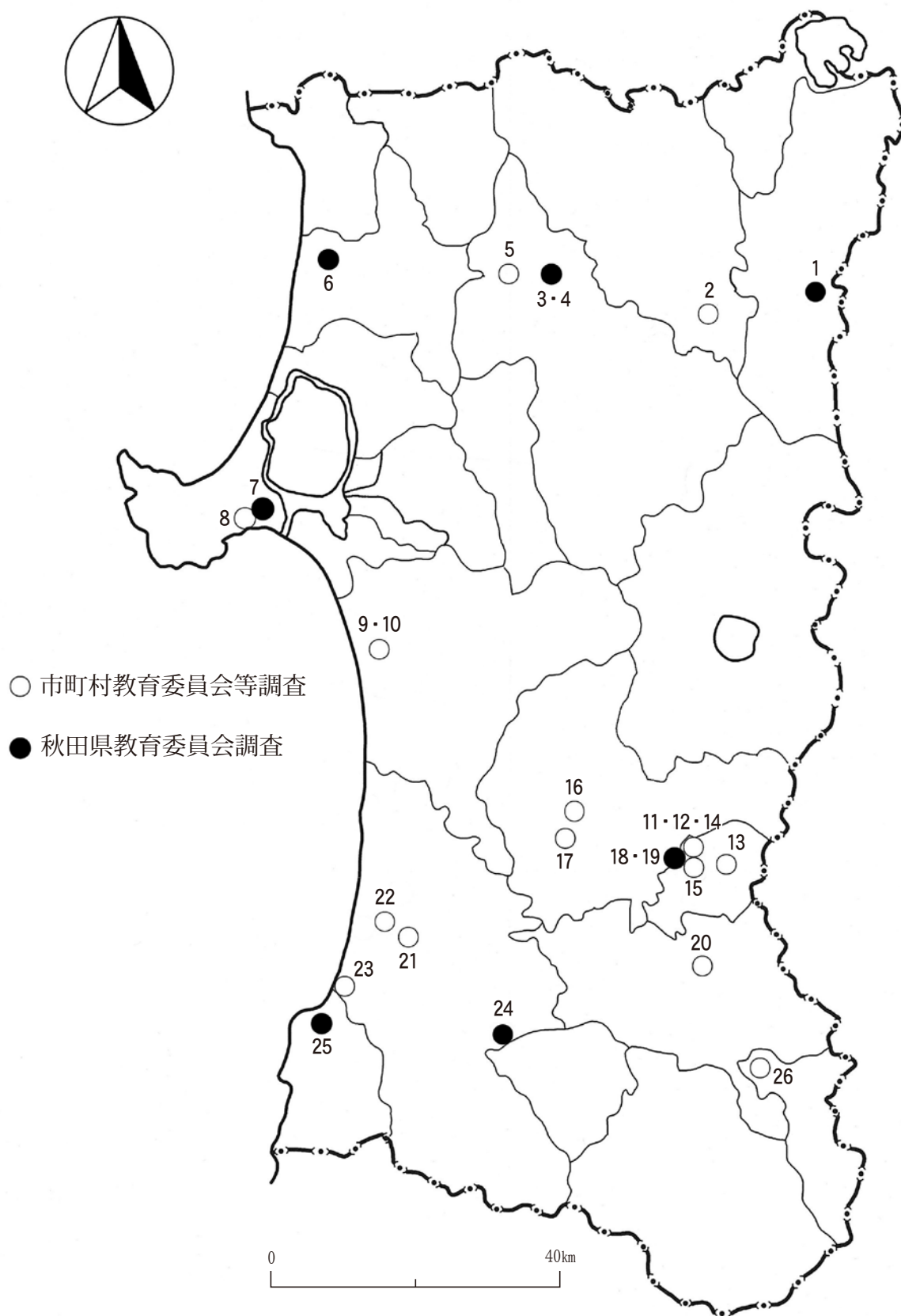
●地方特定道路整備事業主要地方道羽後向田館合線：智者鶴遺跡

2 確認調査

	事業名	遺跡名・所在地	調査期間	調査担当者
1	一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業	横枕遺跡 (にかほ市)	5月11日～6月10日	袴田道郎 高橋和成
2	一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業	深堰遺跡 (にかほ市)	10月19・20日	榮 一郎 袴田道郎
3	一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業	家ノ浦Ⅱ遺跡 (にかほ市)	10月30日	榮 一郎 袴田道郎
4	一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業	家ノ浦遺跡 (にかほ市)	10月30日～11月26日	榮 一郎 袴田道郎
5	一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業	前田表遺跡 (にかほ市)	11月9日～11月13日	榮 一郎 袴田道郎
6	一般国道13号河辺拡幅事業	黒沼下堤下館跡 (秋田市)	10月19日～10月23日	五十嵐一治 草薨裕太郎
7	一般国道13号院内道路建設事業	白館跡 (湯沢市)	10月26日～11月4日 11月16日～11月17日	山村 剛 草薨裕太郎
8	一般国道13号神宮寺バイパス建設事業	北檜岡中野遺跡 (大仙市)	11月30日～12月4日	柴田陽一郎 草薨裕太郎
9	一般国道46号角館バイパス建設事業	月見堂館跡 (仙北市)	10月1日～10月9日	山村 剛 草薨裕太郎

3 埋蔵文化財発掘調査

(1) 平成21年度秋田県内発掘調査遺跡



平成21年度県内発掘調査遺跡の位置

平成21年度県内発掘調査遺跡一覧

No	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査主体者	事業名等	主な時代：性格
1	湯瀬館跡	鹿角市八幡平字湯瀬古館	6/15～10/30	7,300㎡	秋田県教育委員会	国道282号交通安全施設等整備事業	縄文：散布地 中世：城館跡
2	茂木屋敷跡	大館市十二所字元館	6/2～11/21	1,600㎡	大館市教育委員会	地区公民館建設	近世：屋敷跡
3	折戸遺跡	北秋田市栄字折戸	5/18～6/8	500㎡	秋田県教育委員会	一般国道7号鷹巣大館道路建設事業	縄文：集落跡
4	大沢倉下遺跡	北秋田市栄字大沢倉下	6/9～7/21	1,700㎡	秋田県教育委員会	一般国道7号鷹巣大館道路建設事業	縄文：散布地 近世～近代：生産遺跡
5	伊勢堂岱遺跡	北秋田市脇神字伊勢堂岱	6/19～11/31	380㎡	北秋田市教育委員会	学術調査	縄文：環状列石
6	前谷地遺跡	能代市荷八田字前谷地	6/11～7/30	2,250㎡	秋田県教育委員会	地方特定道路整備事業一般県道富根能代線	平安：集落跡
7	小谷地遺跡	男鹿市脇本富永字小谷地	6/22～11/6	3,700㎡	秋田県教育委員会	県道男鹿琴丘線建設事業	弥生・古墳・平安・中世：集落跡
8	脇本城跡 第18次	男鹿市脇本脇本字兜ヶ崎外	5/27～10/5	206㎡	男鹿市教育委員会	学術調査	中世：城館跡
9	秋田城跡 第94次	秋田市将軍野南1丁目	4/20～9/17	700㎡	秋田市教育委員会	学術調査	奈良・平安：城柵跡
10	秋田城跡 第95次	秋田市寺内大小路	9/28～10/27	60㎡	秋田市教育委員会	学術調査	奈良・平安：城柵跡
11	後町遺跡	仙北郡美郷町本堂城回字後町	6/16～7/16	330㎡	美郷町教育委員会	区画整理事業	平安：散布地
12	仲ノ町遺跡	仙北郡美郷町本堂城回字仲ノ町	6/16～7/16	320㎡	美郷町教育委員会	区画整理事業	平安：散布地
13	一丈木遺跡	仙北郡美郷町浪花字一丈木	8/4～10/3	700㎡	美郷町教育委員会	町道拡幅工事	縄文：集落跡
14	本堂城跡	仙北郡美郷町本堂城回字館間	10/15～11/7	63㎡	美郷町教育委員会	学術調査	中世：城館跡
15	中屋敷Ⅱ遺跡	仙北郡美郷町土崎字中屋敷	10/16～11/30	1,500㎡	美郷町教育委員会	町道中村線改良舗装工事	縄文：散布地
16	新山遺跡	大仙市北橋岡字新山	4/14～8/31	10,000㎡	大仙市教育委員会	農業開発	平安：集落跡
17	橋岡焼大杉古窯	大仙市南外字大杉	9/7～10/9	50㎡	大仙市教育委員会	農業開発	近世：窯跡
18	払田柵跡 第139次	大仙市払田字百目木・中谷地	5/1～7/17	281㎡	秋田県教育委員会	学術調査	平安：城柵跡
19	払田柵跡 第140次	大仙市払田字館前	9/29～11/25	86㎡	秋田県教育委員会	学術調査	平安：城柵跡
20	大鳥井山遺跡 第11次	横手市大鳥町	4/15～8/28	231㎡	横手市教育委員会	学術調査	平安：城館跡
21	荒城館	由利本荘市荒町字扇田	5/21～6/12	93㎡	由利本荘市教育委員会	農業開発	中世：城館跡
22	菖蒲崎貝塚	由利本荘市川口字下菖蒲崎	7/13～8/31	75㎡	由利本荘市教育委員会	学術調査	縄文：貝塚
23	浜館跡	由利本荘市西目町戸字堀ノ沢	10/5～10/16	140㎡	由利本荘市教育委員会	公衆トイレ建設工事	中世：城館跡
24	智者鶴遺跡	由利本荘市東由利黒測字境田・智者鶴外	6/1～6/26	64㎡	秋田県教育委員会	地方特定道路整備事業主要地方道羽後向田館合線	縄文：集落跡・墓
25	上谷地Ⅱ遺跡	にかほ市平沢字上谷地	7/13～9/9	2,950㎡	秋田県教育委員会	一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業	平安：集落跡
26	菅生田輪遺跡	雄勝郡東成瀬村田子内字菅生田輪	9/8～11/28	532㎡	東成瀬村教育委員会	学術調査	縄文：集落跡・墓

※番号は左の図の番号に対応します。

(2) 発掘調査概要

ゆ ぜ たてあと 湯瀬館跡

1. 調査要項

- ①所在地 秋田県鹿角市八幡平字湯瀬古館62外
- ②調査期間 平成21年6月15日～10月30日
- ③調査面積 7,300㎡
- ④遺跡の時代 縄文時代、弥生時代、平安時代、中世
- ⑤遺跡の性格 散布地、館跡
- ⑥事業名 国道282号交通安全施設等整備事業
- ⑦事業関係機関 秋田県鹿角地域振興局建設部
- ⑧調査担当 柴田陽一郎・山田祐子・巴 亜子・深沢恵里子

2. 調査概要

検出遺構				主な出土遺物
帯曲輪	3か所	陥し穴	1基	縄文土器（中期・後期・晩期）
竪穴状遺構	3基	土坑	21基	土偶（後期）
掘立柱建物跡	2棟	性格不明遺構	1基	石器（石鏃・石匙）
溝状遺構	4条	柱穴様ピット	309基	弥生土器
焼土遺構	3基			土師器 陶磁器

遺跡は、JR花輪線湯瀬温泉駅から北西約400mの国道282号線沿い、湯瀬集落（いわゆる湯瀬温泉郷）の北側に位置している。米代川の右岸、五ノ宮嶽の山裾に形成された標高227～255mの台地上に立地する。1591（天正19）年に館が破却されたという記録が残っており、現況の地形からも曲輪や堀を確認することができるため、「鹿角四十二館」の一つとして知られている。

湯瀬館跡は、湯瀬小学校跡地と「館コ」と呼ばれる2か所の平坦部が主要な曲輪であり、1979（昭和54）年には東北自動車道建設事業に先立って「館コ」部分の調査が行われた。調査の結果、掘立柱建物跡や空堀、永楽通宝・青磁・美濃灰釉皿が見つかった。

今回の発掘調査では、小学校跡地の南側に位置する3段の帯曲輪と、その東側の畑地、西側の宅地を調査した。その結果、帯曲輪を造るために山の斜面を大きく掘削した様子を確認することができた。帯曲輪では、竪穴状遺構1基のほか土坑・柱穴様ピットが検出されたが、残存状況は良くなかった。これは館が破却された後も、平坦面が繰り返し整地され、畑地・宅地・墓地として現代まで利用されていたためと考えられる。西側の宅地からは竪穴状遺構2基と掘立柱建物跡2棟が見つかり、中国産の染付皿が出土した。西側の宅地は「館コ」の南側にあたり、館の一部である可能性が高い。

また、この調査では、中世以前の遺物も出土した。特に帯曲輪の東側にある旧畑地に残存していた埋没沢からは、縄文時代中期末葉から後期前葉および弥生時代の土器や土偶が出土したが、当時の遺構は検出されなかった。これらの遺物は、調査区の斜面上方から埋没沢へ投棄されたか流れ込んだものと推測され、調査区の北側の山麓部で継続的に集落が営まれていた可能性を示唆している。

湯瀬館跡全景
(南東から)



中世の帯曲輪
(南東から)



縄文時代後期の土偶
出土状況 (東から)



おりど 折戸遺跡・おおさわくらした 大沢倉下遺跡

1. 調査要項

- ①所在地 折戸遺跡 北秋田市栄字折戸
大沢倉下遺跡 北秋田市栄字大沢倉下
- ②調査期間 折戸遺跡 平成21年5月18日～6月8日
大沢倉下遺跡 平成21年6月9日～7月21日
- ③調査面積 折戸遺跡：500㎡ 大沢倉下遺跡：1,700㎡
- ④遺跡の時代 折戸遺跡：縄文時代（早期）、中～近世 大沢倉下遺跡：縄文時代（後期）、近世～近代
- ⑤遺跡の性格 折戸遺跡：集落跡 大沢倉下遺跡：集落跡、生産遺跡
- ⑥事業名 一般国道7号鷹巣大館道路建設事業
- ⑦事業関係機関 国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所
- ⑧調査担当 山村剛・菅原博志

2. 調査概要

検出遺構	主な出土遺物
折戸遺跡 縄文時代 土坑 3基 中～近世 土坑 3基 性格不明遺構 1基 時期不明 土坑 1基	折戸遺跡 縄文時代 土器 石器（トランシェ様石器、楔形石器、剥片）
大沢倉下遺跡 近世～近代 焼土遺構 3基 時期不明 土坑 10基	大沢倉下遺跡 縄文時代 土器 石器（勾玉、剥片）

折戸・大沢倉下遺跡はJR鷹巣駅より東約6kmに位置し、米代川の支流大沢川沿いの丘陵から舌状に伸びた台地縁辺部に位置する。両遺跡の東ないし北約0.5kmには鞍山、南東約2.5kmには摩当山がそびえている。

折戸遺跡

折戸遺跡は、大沢川右岸、標高82～94mの馬の背状の地形で、傾斜がきつく、調査区中央では比較的平坦な箇所がある。

調査の結果、縄文時代の貯蔵穴と思われる土坑が2基検出され、その一方には縄文時代早期に使用されたトランシェ様石器が出土した。また、遺跡南側の斜面では貝殻文が施された土器片が数点出土し、縄文人の集落の一部であったと考えられる。

大沢倉下遺跡

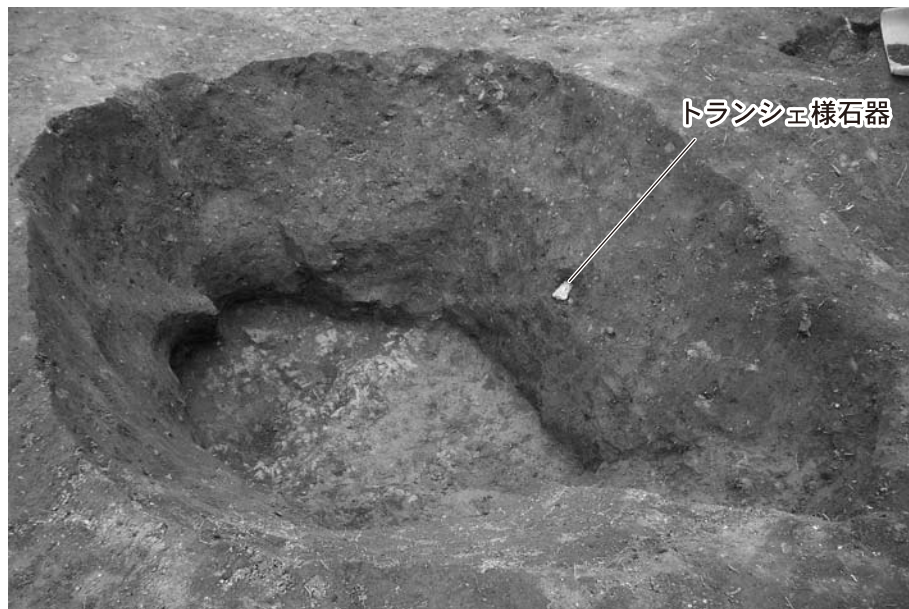
大沢倉下遺跡は、折戸遺跡より東約0.3mの大沢川右岸、丘陵先端の標高91～124mの尾根状と沢地状の地形からなり、部分的に平坦な面が確認できる。

調査の結果、近世～近代の焼土遺構、時期不明の土坑の他に、遺物では縄文土器片の他に、ヒスイ製勾玉が出土していることから、縄文人の集落や墓が隣接することが考えられる。

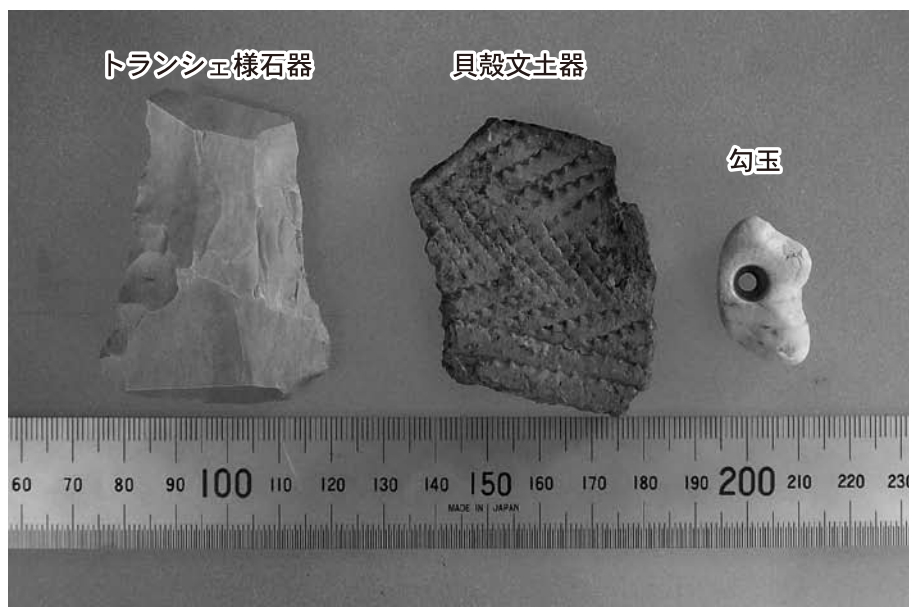
折戸遺跡遠景
大沢倉下遺跡近景
(東から)



折戸遺跡
トランシェ様石器
出土状況(東から)



折戸遺跡・大沢倉下遺跡
出土遺物(右・中央は折戸遺跡、左は大沢倉下遺跡で出土)



まえやち 前谷地遺跡

1. 調査要項

- ①所在地 秋田県能代市荷八田字前谷地206外
②調査期間 平成21年6月11日～7月30日
③調査面積 2,250㎡
④遺跡の時代 古代（平安時代）
⑤遺跡の性格 集落跡
⑥事業名 地方特定道路整備事業一般県道富根能代線
⑦事業関係機関 秋田県山本地域振興局建設部
⑧調査担当 築瀬圭二・長谷川幹子

2. 調査概要

検出遺構				主な出土遺物	
古代（平安時代）				古代（平安時代）	
竪穴住居跡	1軒	掘立柱建物跡	2棟	土師器	須恵器
竪穴状遺構	3基	井戸跡	4基	土製品	木製品
土坑	77基	柵列跡	7列	鉄滓	羽口
溝跡	3条	焼土遺構	8基		
畦跡（道路状遺構）	3条	柱穴様ピット	65基	中世	
性格不明遺構	1基			珠洲系陶器	

前谷地遺跡はJR東能代駅より米代川を挟み、北へ約2.4km、標高7.6～8.3mの沖積地に立地する。

調査はほぼ中央を流れる排水路を境にして、東・西調査区に分けて行い、調査の結果、平安時代の竪穴住居跡、竪穴状遺構、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑、焼土遺構などが検出された。

東調査区の竪穴住居跡は、一辺が約6mで壁際には壁溝が巡る。壁溝の一部や壁際に杉皮や薄い板材が残り、住居の外壁として埋め込んだ跡と考えられる。カマドは南東側の壁に造られ、長さ約1.2mほどの煙道が付く。住居跡の覆土の中間層には十和田a火山灰が流入して一面に堆積し、下位層には火山灰が混入しないことから、住居は火山灰降下（915年）前に廃棄されたと考える。井戸跡は東調査区で4基検出され、その中の1基は広葉樹の樹皮を綴じ材にし、幅約30cmの杉材を使用した直径60cm前後の井筒曲物を2段に積み重ねる構造である。井戸は曲物の放射性炭素年代測定結果から、平安時代末期と推定される。

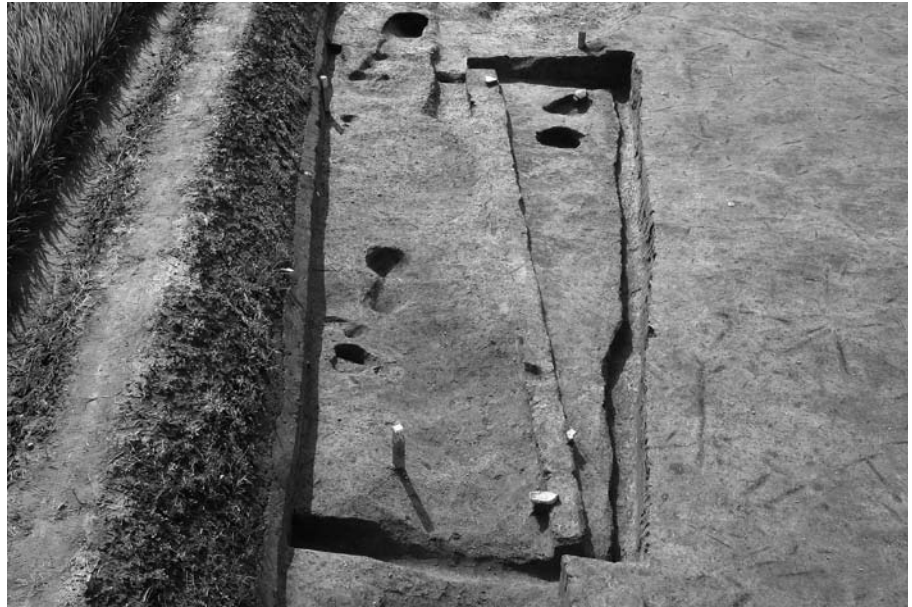
西調査区から桁行方向が北西－南東を示す2棟の掘立柱建物跡を検出した。北側の1棟は3度の建て替えが行われ、規模は最大桁行3間（8.8m）×梁行3間（4.6m）である。建物の内部と周辺からは3基の焼土遺構と鉄滓や羽口などが見つかると推定される。南西端の掘立柱建物跡の柱穴の1基からは正位に置かれた完形の2個の土師器坏が出土した。柱穴は柱を抜き取った後に土器を置いて埋め戻したと考えられる。建物を取り壊した際の儀礼に関連すると考える。

調査の結果、遺跡は能代平野につくられた平安時代後半の集落跡で、鍛冶関連の作業が行われていたことが判明した。米代川河口域の沖積地での集落跡として注目すべき遺跡である。

遺跡遠景
手前が東調査区
奥が西調査区
(東から)



竪穴住居跡
(西から)



曲物が残る井戸跡
(西から)



こやち 小谷地遺跡

1. 調査要項

- ①所在地 秋田県男鹿市脇本富永字小谷地8・9外
 ②調査期間 平成21年6月22日～11月6日
 ③調査面積 3,700㎡
 ④遺跡の時代 弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、中世
 ⑤遺跡の性格 集落跡
 ⑥事業名 県道男鹿琴丘線建設事業
 ⑦事業関係機関 秋田県秋田地域振興局建設部
 ⑧調査担当 山田徳道・村上義直・藤本玲子

2. 調査概要

検出遺構				主な出土遺物		
奈良・平安時代				弥生時代	土器	
掘立柱建物跡	1棟	杭列	8条	古墳時代	土師器	
足場状遺構	1基	遺材集中地点	5か所	奈良・平安時代	須恵器	土師器 丸靱
堰	1か所	遺材埋設地点	13か所		遺材	木製品
土坑	1基	河川跡	1条	中世	青磁	
道路状遺構	1条					

小谷地遺跡は、JR脇本駅の北0.8km、寒風山の裾野に接する標高11m前後の低地に立地する。当遺跡は、昭和34年の耕地整理の際に埋没家屋が発見されたことで注目を集め、これまでに4回の発掘調査が行われている。28年ぶりとなる今回の調査は、過去の調査地点から東に70mほど離れた所で行われ、奈良時代から平安時代にかけて（約1,200年前）を中心とする遺構・遺物を検出した。

足場状遺構は、泥炭地に長さ約4m、幅20cm、厚さ約2cmの板材を中心とする遺材約50本を敷いた遺構である。泥炭地の歩行や何らかの作業を行う際の足場として使用されたものと考えられる。遺材には、建物からの転用材も少なからず見受けられる。

河川跡から検出された堰は、約7mの川幅いっぱいに長さ8m、幅3mの広がり遺材が分布する。構造は、流れと交わる方向（直交ではない）に渡された長さ3～5.5m、径5～20cmの丸木材とその上に直交するように掛けられた長さ1m、幅20cmほどの板材列を1セットとしたものが3段積み重なり構成される。最上段は、さらに杉皮で覆われ、杉皮の上には粘土が乗せられ入念な漏水対策が施されている。今のところ、堰の目的については不明であるが、古代の土木技術の水準を知ることができるという点で大変貴重な資料といえる。

今回の調査結果から、今年度調査区を含むこれまでの調査部分は、当時の集落の中心部ではなく、生業活動に関係した場所だったと考えられる。今後は入念な漏水対策が施されている堰の目的や、堰の構築に係る技術提供源に関して、秋田城の影響も視野に入れ、検討する必要がある。

東側上空から撮影
(東から)



足場状遺構
(北から)



古代の堰
(北から)



かみやち 上谷地Ⅱ遺跡

1. 調査要項

- ①所在地 秋田県にかほ市平沢字上谷地103外
- ②調査期間 平成21年7月13日～9月9日
- ③調査面積 2,950㎡
- ④遺跡の時代 古代（平安時代）
- ⑤遺跡の性格 集落跡
- ⑥事業名 一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業
- ⑦事業関係機関 国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所
- ⑧調査担当 袴田道郎・相馬美紗子

2. 調査概要

検出遺構	主な出土遺物
古代 掘立柱建物跡 1棟 溝跡 2条 杭列 1条 土坑 8基 柱穴様ピット 17基	古代 須恵器 土師器 鉄製品（刀子） 木製品（桶の底板・箸・下駄・火鉢板） 製鉄関連遺物（鉄滓・フィゴ羽口） 中世 陶磁器 銭貨

上谷地Ⅱ遺跡は鳥海山を望むJR仁賀保駅より南へ1km、鳥海山の噴火によって形成された象潟泥流台地の北東端の標高13mほどの低地に立地する。現況は旧水田で、水田が造成される以前は地名が示す通りの湿地であったと思われる。

調査の結果、遺構として平安時代の掘立柱建物跡・溝跡・杭列・土坑・柱穴様ピットを検出した。調査区東側では南北方向に、西側では東西方向に、それぞれ30mほどの溝跡が蛇行しながら延びており、土層から水が流れた痕跡が認められた。溝跡やその周辺からは土師器の坏や須恵器片が多く検出され、文字や記号の意味の特定は難しいものの、墨書のある須恵器の蓋や土師器の坏が出土している。近隣の立沢遺跡や前田表Ⅱ遺跡からも同様に墨書土器が出土しており、周囲の遺跡との関連も考慮する必要がある。東側の溝跡の東側に桁行3間(5m)×梁行2間(4m)の掘立柱建物跡1棟を検出した。小規模な倉庫などに使用されたものと思われるが、掘立柱による平地式住居の可能性も考えられる。他の主な出土遺物として、桶の底板・箸・下駄・火切り板などの木製品や、鉄滓・フィゴ羽口などの製鉄関連遺物、中世に流通した輸入銭貨や陶磁器などがある。このように生活用品が多数検出されているが、それを使用した人々の集落の中心は調査区外の南側に広がっていた可能性が高い。

今回の調査で検出された遺構や遺物から、本遺跡は古代（平安時代）を中心とした遺跡であることがわかった。遺跡全体の性格は集落の中心部分が未発見なため詳細は不明ではあるが、立沢遺跡をはじめとする周辺の古代遺跡群の一つとして位置づけられるものであり、古代の人々が生活を営んだ様子をうかがい知ることができる遺跡である。

遺跡遠景
(北から)



調査区西側の溝跡
(東から)



桶の底板出土状況
(北から)



ちしゃづる 智者鶴遺跡

1. 調査要項

- ①所在地 秋田県由利本荘市東由利黒淵字境田39-8・10、字智者鶴47-3
- ②調査期間 平成21年6月1日～26日
- ③調査面積 64㎡
- ④遺跡の時代 縄文時代（後期・晩期）
- ⑤遺跡の性格 墓域・集落跡
- ⑥事業名 地方特定道路整備事業主要地方道羽後向田館館合線
- ⑦事業関係機関 秋田県由利地域振興局建設部
- ⑧調査担当 加藤竜・草薨裕太郎

2. 調査概要

検出遺構	主な出土遺物
土坑 10基	土器（深鉢・浅鉢・壺・注口土器）
配石遺構 2基	土製品（土偶）
柱穴様ピット 40基	石器（石鏃・石匙・石錐・磨製石斧・石皿・磨石・凹石） 石製品（石棒・円盤状石製品）

智者鶴遺跡は、由利本荘市東由利庁舎や湯出野遺跡がある老方地区から南に約7km、八塩山（標高713m）の東約4kmに位置する。子吉川の支流である石沢川（高瀬川）の左岸にあり、南西方向から流れる小河川との合流点付近、標高約184mの段丘上に立地する。

今回の発掘は平成20年に継続して行ったもので、前年の調査により遺跡は河川に近い低位面と、これより一段高い高位面の2面に形成されたことが判明している。低位面には縄文時代後期前葉～中葉の土器を多量に含む遺物包含層が良好に遺存し、同時期の土坑や配石遺構などが検出された。高位面は上部を削平されていたが、晩期の土坑や掘立柱建物跡などが検出されている。平成21年は低位面の市道直下部分を対象として、遺物包含層と土坑・配石遺構などを調査した。

土坑の多くは1m前後の円形平面を呈し、人為的に埋め戻された堆積状況を示すことから、土坑墓と推測される。土坑に明確な遺物の副葬例は認められないが、底面に複数の大形礫を伴うものがあり、葬送儀礼行為の一つと考えられる。配石遺構は直径1m以内に収まる小規模なもの、これを超える大規模なものも確認されている。これらは下部の掘り込みや特徴的な平面形をもたず、性格は不明であるが、墓地周辺で行われた祭祀行為に関連した施設と推察される。

調査は遺跡のごく限られた範囲を対象としたものではあったが、少なくとも遺跡の低位面は後期前・中葉に土坑・配石遺構で構成される墓域・祭祀域として機能し、晩期になると高位面を主体として居住域が形成されていた可能性が高い。

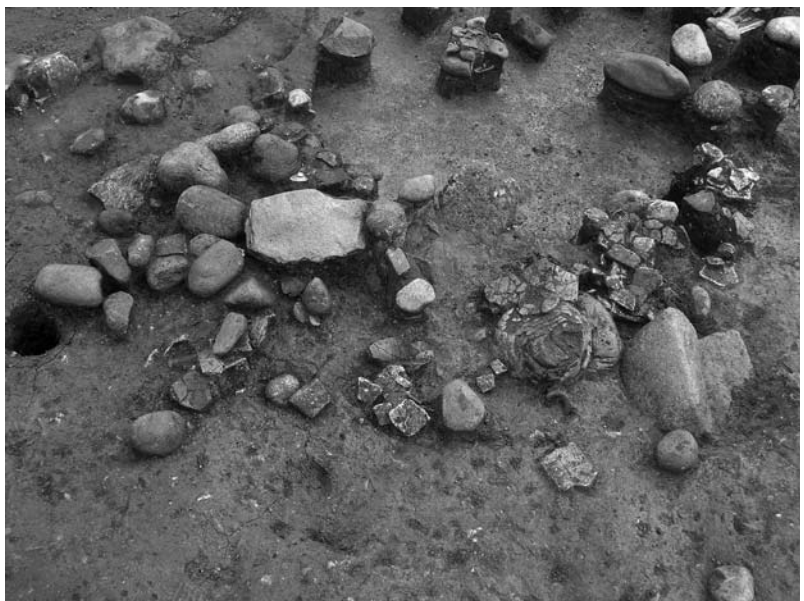
平成21年度調査区全景
(南から)



底面に礫を伴う土坑
(南から)



配石遺構
(西から)



4 刊行物一覧

遺跡名	堂ノ沢遺跡	発掘調査年	20年	発行年月	22年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第449集 堂ノ沢遺跡 —一般国道7号鷹巣大館道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ—				
内容	遺跡の時代	縄文時代 弥生時代			
	遺跡の性格	縄文時代：集落跡 墓域 弥生時代：散布地			
	検出遺構	縄文時代：竪穴住居跡8軒 土坑72基 焼土遺構4基 配石遺構1基 時期不明：土坑7基 焼土遺構5基 配石遺構2基 溝跡2条			
	出土遺物	縄文土器 弥生土器 石器 鉄滓 フイゴ羽口			

遺跡名	下野Ⅱ遺跡	発掘調査年	20年	発行年月	22年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第450集 下野Ⅱ遺跡 —一般国道7号鷹巣大館道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ—				
内容	遺跡の時代	縄文時代 平安時代 中世			
	遺跡の性格	墓域・集落			
	検出遺構	集石遺構9基 フラスコ状土坑1基 土坑10基 道路状遺構1条 竪穴状遺構2基 掘立柱建物跡3棟 柱穴列4列 かまど状遺構2基 柱穴様ピット37基			
	出土遺物	縄文土器 石器 弥生土器 砥石			

遺跡名	前田表Ⅱ遺跡	発掘調査年	19・20年	発行年月	22年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第451集 前田表Ⅱ遺跡 —一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ—				
内容	遺跡の時代	平安時代 中世 江戸時代			
	遺跡の性格	集落跡			
	検出遺構	平安時代～中世：土坑59基 溝状遺構11条 沢状の落ち込み1か所 柱列1基 柱穴様ピット151基 江戸時代：溝状遺構1条			
	出土遺物	土師器 須恵器 木製品 陶磁器 土製品 金属製品			

遺跡名	向様田D遺跡	発掘調査年	19年	発行年月	22年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第452集 向様田D遺跡（第2次） —森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XXI—				
内容	遺跡の時代	縄文時代			
	遺跡の性格	墓域 祭祀跡			
	検出遺構	盛土1か所 土坑2基 土器埋設遺構1基 配石遺構1基 立石遺構1基 焼土遺構1基 赤色顔料撒布跡3か所 柱穴様ピット14基			
	出土遺物	縄文土器 土製品 石器 石製品			

遺跡名	森吉家ノ前A遺跡	発掘調査年	19年	発行年月	22年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第453集 森吉家ノ前A遺跡（第3次） －森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XXII－				
内容	遺跡の時代	縄文時代 弥生時代 平安時代 中世 近世			
	遺跡の性格	縄文時代：集落跡 墓域 弥生時代：散布地 平安時代：集落跡 中世：集落跡 墓域 近世：散布地			
	検出遺構	縄文時代：竪穴住居跡5軒 土坑51基 土器埋設遺構4基 焼土遺構3基 配石遺構1基 捨て場1か所 弥生時代：土坑1基 平安時代：竪穴住居跡1軒 焼土遺構1基 中世：掘立柱建物跡16棟 井戸跡13基 土坑110基 焼土遺構20基 溝跡5条 近世：溝跡4条 中世・近世：柱穴様ピット1,121基 時期不明：土坑20基 焼土遺構5基			
	出土遺物	縄文土器 弥生土器 石器 土師器 珠洲系陶器 陶磁器 金属製品（釘、和鏡、筭、銭貨等） 木製品（箸、曲物、下駄、砵等） フイゴ羽口			

遺跡名	智者鶴遺跡	発掘調査年	20・21年	発行年月	22年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第454集 智者鶴遺跡 －地方特定道路整備事業主要地方道羽後向田館合線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－				
内容	遺跡の時代	縄文時代			
	遺跡の性格	墓域・集落跡			
	検出遺構	土坑50基 配石遺構6基 掘立柱建物跡2棟 柱穴様ピット214基			
	出土遺物	縄文土器 石器 土製品 石製品			

遺跡名	平右衛門田尻遺跡	発掘調査年	20年	発行年月	22年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第455集 平右衛門田尻遺跡 －広域基幹河川改修事業（鉄道橋・道路橋緊急対策事業）新城川に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－				
内容	遺跡の時代	平安時代 室町時代			
	遺跡の性格	集落跡			
	検出遺構	平安時代：鍛冶工房跡1軒 土坑2基 室町時代：井戸跡8基 土坑58基 溝跡3条 焼土遺構1基			
	出土遺物	縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 珠洲系陶器			

書名	秋田県文化財調査報告書第456集 遺跡詳細分布調査報告書	調査年	21年	発行年月	22年3月
内容	平成21年度に実施した遺跡分布調査と確認調査の報告				

遺跡名	折戸遺跡・大沢倉下遺跡	発掘調査年	21年	発行年月	22年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第459集 折戸遺跡・大沢倉下遺跡 —一般国道7号鷹巣大館道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ—				
内容	遺跡の時代	折戸遺跡：縄文時代 中世～近世 大沢倉下遺跡：縄文時代 近世～近代			
	遺跡の性格	折戸遺跡：集落跡 大沢倉下遺跡：集落跡 生産遺跡			
	検出遺構	折戸遺跡 縄文時代：土坑3基 中世以降：土坑3基 性格不明遺構1基 時期不明：土坑6基 大沢倉下遺跡 近世以降：焼土遺構3基 時期不明：土坑10基			
	出土遺物	折戸遺跡：縄文土器 石器 大沢倉下遺跡：縄文土器 石器			

書名	秋田県埋蔵文化財センター研究紀要 第24号	発行年月	22年3月
内容	辻 誠一郎 講演録「環境史からみた古代の秋田」 小林 克 「武藤鉄城『石器打法研究』をめぐって」 吉川耕太郎 「縄文時代の珪質頁岩採掘址群—三種町上岩川遺跡群の構成—」 高橋 学 「横手盆地における払田柵成立以前の古代集落—大仙市諸又遺跡の事例を端緒として—」 楊 芳 「中国における文化遺産保護管理体系の紹介」（訳：高村知恵子・王義軍）		

書名	古代城柵と蝦夷—払田柵跡とその時代—	発行年月	21年8月
内容	平成21年度 第1回企画展「古代城柵と蝦夷—払田柵跡とその時代—」パンフレット Ⅰ 古代城柵の世界 Ⅱ 八郎潟東岸の蝦夷 Ⅲ 米代川河口域の世界 Ⅳ 米代川上流域の蝦夷世界 Ⅴ 古代蝦夷の墓		

書名	亀ヶ岡文化—縄文造形の華—	発行年月	22年1月
内容	平成21年度 第2回企画展「亀ヶ岡文化—縄文造形の華—」パンフレット —亀ヶ岡文化への胎動— —各地の亀ヶ岡文化 米代川流域— —各地の亀ヶ岡文化 雄物川流域— —亀ヶ岡から遠賀川へ—		

5 平成21年度秋田県甘肅省文化交流事業

(1) 交流事業の概要

事業の趣旨

- ① 秋田県甘肅省文化交流事業は21世紀の人材育成を目指し、県省双方が毎年2名程度の交流員を相互に派遣して、友好親善と相互理解を深めようという事業である。
- ② 県省双方は、合同発掘調査などによる埋蔵文化財を主とした文化分野における友好交流を促進し、国際性豊かな人材を育成する。
- ③ 本事業は、2001（平成13）年を初年度とし、2010（平成22）年度までの10年間を単位とする事業である。

平成21年度の事業概要

- ① 甘肅省に派遣した秋田県交流員は、甘肅省文物考古研究所を中心に甘肅省博物館等で、甘肅省の文化財について研修するとともに交流を行った。
秋田県交流員 菊池 晋 教育庁生涯学習課文化財保護室副主幹
高橋和成 埋蔵文化財センター調査班文化財主事
派遣期間 平成21年6月30日～平成21年9月25日
- ② 秋田県に受け入れた甘肅省交流員は、秋田県及び日本の歴史や文化財に関する研修を行うとともに、学校交流会において児童・生徒と触れあった。
甘肅省交流員 楊 芳（ヤン ファン Yang Fang）甘肅省文物局弁公室（計画財務処）
県埋蔵文化財センターにて研修
朱 森平（ジュ センピン Zhu Sen Ping）甘肅省文物局博物館処
県立博物館にて研修
研修期間 平成21年8月16日～平成21年11月15日
- ③ 秋田県教育委員会は訪問団を甘肅省に派遣し、甘肅省博物館建館70周年祝典及びシルクロード文化国際学術フォーラム開幕式に出席し、根岸県教育長がお祝いの言葉を述べた。
また、甘肅省文化庁・文物局・博物館・文物考古研究所幹部との協議の上、日本国秋田県と中華人民共和国甘肅省との第二次文化交流促進に係る協議書の署名を甘肅省政府との間で交わし、平成23年度以降10年間の県省の文化交流の内容等について締結した。
なお、この機会に根岸県教育長と咸輝甘肅省副省長が会談し、県省の交流について意見交換を行った。
秋田県訪問団 根岸 均 秋田県教育委員会教育長
古内一樹 秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室長
鈴木幸一 秋田県立博物館長
通訳 鈴木さなえ氏
甘肅省訪問期間 平成21年7月31日～平成21年8月4日

(2) 秋田県交流員の活動

①活動の記録

月 日	内 容
6月31日	秋田出発、北京着。
7月1日	蘭州入り、蘭州での生活を開始する。
7月3日	甘粛省文物考古研究所所長、副所長にあいさつ。勤務開始。
7月6・7日	甘粛省文物考古研究所展示室及び収蔵庫を見学する。
7月8日	甘粛省博物館にて「新疆文物精華展」を見学し、館長、副館長にあいさつ。
7月9日	甘粛省文物考古研究所にて磨嘴子遺跡合同発掘調査関係出土品リスト作成準備作業を開始する。(以後考古所勤務時はこれにあたる)
7月13日～7月31日	秋田県訪問団日程調整と第二次文化交流促進に係る協議書案等に関する下交渉及び準備作業等にあたる。
7月31日	秋田県訪問団蘭州到着。甘粛省文化庁・文物局・博物館・文物考古研究所幹部との挨拶及び会談と甘粛省博物館主催歓迎会に同席する。
8月1日	甘粛省博物館建館70周年祝典及びシルクロード文化国際学術フォーラム開幕式に同席する。 根岸教育長・咸輝甘粛省副省長会談及び日本国秋田県と中華人民共和国甘粛省との第二次文化交流促進に係る協議書署名式に同席する。
8月2日	甘粛省博物館見学及び天水方面視察に同行する。
8月3日	麦積山石窟視察同行後、蘭州に帰り夕刻に秋田県答礼宴を開催する。
8月4日	秋田県訪問団の蘭州出発を見送る
8月15日	炳靈寺石窟視察研修。
8月24日～9月4日	磨沟遺跡発掘調査現場視察研修。
9月7日～9月11日	省文物考古研究所収蔵庫にて磨嘴子遺跡合同発掘調査関係出土品の写真撮影及び法量計測作業等を行う。
9月13日	省博物館に移設されている嘉峪関魏晋壁画墓(5号墓)を見学する。
9月15日	嘉峪関、万里長城第一墩、長城博物館及び魏晋壁画墓(6号墓)視察研修。
9月19日	蘭州出発。
9月20日	西安視察研修開始。半坡遺跡博物館、陝西歴史博物館見学。
9月21日	乾陵、永泰公主墓、章懐太子墓及び陽陵博物館を見学。
9月22日	西安市博物院、小雁塔を見学。北京へ移動。
9月23日	北京視察研修開始。万里長城(八達嶺)、明十三陵(定陵)を見学。
9月24日	盧溝橋、抗日戦争記念館及び周口店北京原人遺跡を見学。
9月25日	北京出発、帰国。

② 交流員の感想

埋蔵文化財センター 文化財主事 高橋和成

8月24日月曜日、いつも通り文物考古研究所に出勤すると王輝所長から「今日から臨譚県磨沟遺跡の発掘調査に行くので準備してください。」と言われた。噂には聞いていたが、本当に突然研修に出かけるのはどうやら中国ではあたりまえの事のようにである。一旦帰宅し、準備を始める。発掘調査現場への視察はこちらから希望していたこともあり、いつでもいけるよう衣類や道具はあらかじめ用意していた。昼近くに考古所に戻ると王所長はすでに出かけており、運転手の蘆さんが待っていてくれた。早速車に乗り込み、行き先もよくわからないままの出発となった。途中、高速道路のパーキングエリアで休憩した時に地図を広げ、今どこに向かっているのか訊ねたところ陳旗というところを指してここだと教えてくれた。陳旗郷は甘南蔵族自治州臨譚県にあり蘭州市の南西、直線距離では150km程であるが、途中からは高速道路がなくなり、また峠を越え大きく迂回するため5時間はかかるようである。蘭州から離れるにつれて車窓から見える景色は全くの別世界へと変わる。まずはトウモロコシや果物の耕作地帯となり、そこを過ぎると牛や羊の放牧地帯である。大都市蘭州の食はこうした郊外に広がる耕作、放牧地帯によって支えられていることを実感した。徐々に標高が上がってきていることもあり生えている木も針葉樹となり気温も急激に下がった。道路に面した斜面には細い道のようなものが所々みられるが、たまに山羊を連れて歩いている人が見られる。その遙か先には家が小さく見え、あそこから歩いて来たのだろうがいったい何時間かかるのだろうという程の距離である。峠を越えると所々集落があり、ちょうど初秋の収穫時期であったため、道には収穫した豆や麦を広げている。車はその豆や麦を踏みつけながら走っている。はじめは収穫したものを踏まれてかわいそうと思っていたが、どうやら車に踏ませることでこれらを脱穀しているようだ。中国の農民の非常にたくましい一面を見ることができた。また、道路には麦わらを山積みにして走るオート三輪の姿があり、映画などでみかける昭和の農村にタイムスリップしたような感覚になった。

発掘現場もまさにそのような環境の中にあり、周りでは馬やロバが畑を耕す光景がよく見られた。遺跡は黄河の源流の1つである洮河の南西岸に位置し、北を洮河、南・東・西側三面を山に囲まれた台地上に形成され、この台地は海拔2,200m前後あり、東西長約1,000m、南北幅約300mの馬蹄形に広がる。その中に新石器時代(約4,000年前)の土坑墓が約350基ほとんど切り合うことなく密集している。すでに調査が終わっている数百基の土坑墓が並んでいる様はまさに圧巻であり、中国の歴史のスケールの大きさと密度の濃さを改めて体感した。

研修として実際に1つの土坑墓を中国の調査法に倣い検出から完掘まで調査の手伝いをした。調査方法や道具、記録の取り方など日本とは違う点が多々あるが、最も異なると感じたのは土である。墓坑の検出の時は見た目にはほとんど区別がつかないため、土を削る感触に頼るしかなく、コテで薄く削りながら土の固さを感じ取らなければいけない。しかし検出さえうまくできれば黄土と呼ばれるこの土はすばらしいプレゼントを用意してくれていた。アルカリ成分が強いため人骨や木製品が腐敗しにくく、酸性土壌である日本と比べると残存状態が段違いに良いのである。私が担当した墓からも人骨が2体分出土したが、状態は極めて良好でこのようにしっかりとした人骨を見るのは初めての経験であった。日本で発掘調査をしている我々にとってははとてもうらやましい環境だというのが正直な感想である。研修を通じて視覚的に区別しにくい状況での遺構の検出や精査の方法、そして人骨の検出

の仕方など技術的にも学ぶことは多かった。今後の発掘調査に活かしていきたい。

今、秋田県甘肅省文化交流事業は10年という1つの期間のまとめに取りかかり始めている。今回の交流事業に参加して、これまで9年間の交流によって秋田県と甘肅省は人と人の繋がりを軸に強いパイプができていると感じた。特に研修の面ではこちらの要望を叶えてもらい、また行く先々ではこれまでの交流員ができる限りのお世話をしてくれた。このような待遇はこれまでの交流事業によって築かれたお互いの信頼関係によるものである。今後は次の10年間を見据え、この繋がりを生かした新たな文化交流のあり方を模索する段階にきている。



蘭州市内の様子



陳旗郷の様子



発掘調査作業風景



土坑墓検出の様子



土坑墓完掘状況



人骨検出状況

(3) 甘肅省交流員の活動

① 活動の記録

- 8月17日 秋田空港着
18日 埋蔵文化財センター研修開始、職場内オリエンテーション
20日 高梨神社神楽見学
22日 大曲全国花火競技大会観賞
25日 払田柵跡見学
30日 企画展講演会『古代城柵と蝦夷—払田柵跡とその時代—』聴講
- 9月2日 田沢湖、角館樺細工伝承館、武家屋敷見学
3日 秋田県立近代美術館、横手城、秋田ふるさと村見学
4日 教育長表敬、甘肅省交流員歓迎会
8日 小安峡、川連塗り漆器資料館、西馬音内盆踊り会館見学
9日 男鹿水族館、鶴ノ崎海岸、船川港見学
10日 寒風山、小谷地遺跡・脇本城跡発掘現場見学
11日 入道崎、男鹿真山伝承館、なまはげ館見学
22日 岩手県一戸町御所野遺跡発掘現場見学
30日 象潟蚌満寺、鳥海山、金峰神社、象潟郷土資料館見学
- 10月2日 秋田港、千秋公園、佐竹資料館、赤レンガ郷土館、秋田民俗芸能伝承館見学
3日 秋田地区中日友好協会主催2009年国慶節祝賀会参加
6日 琴丘歴史民俗資料館、五城目森林資料館、秋田花木種苗センター見学
7日 大森山動物園見学
8日 秋田城跡、黒沢家住宅見学
9日 北秋田市大太鼓の館、森吉山ダム、大館郷土博物館見学
11日 八幡平紅葉見学
14日 抱返溪谷紅葉見学
16日 青森県三内丸山遺跡視察研修
25日 第33回民俗芸能大会参加
29～30日 北海道函館視察研修
- 11月2日 清水小学校学校交流会
4日 湯沢高校稲川分校学校交流会
6日 教育長表敬、甘肅省交流員送別会
- 10～14日 関西・関東方面視察研修
15日 成田空港から離日



湯沢高校稲川分校での学校交流会

② 交流員の感想

甘肅省文物局 楊 芳

今年は秋田県と甘肅省との文化交流事業の協議書が交わされてから9年目にあたり、三か月の間、研修を行いました。文化財保護室や県埋蔵文化財センター、県立博物館の配慮により、快適な生活と研修環境を提供いただき、秋田県内各地にとどまらず、北海道函館市や関西方面での景勝地や重要な歴史遺産を見学すること、さらには、学校での交流会に参加することができました。見識を広め、日本の歴史や社会の現状を知り、豊かな風土にはぐくまれた暖かな人情に接することができ、さらには文化財保護に対する取り組みなどを学ぶことができました。県教育庁、文化財保護室、県埋蔵文化財センター、県立博物館の配慮によって多大の収穫を得たことを感謝し、中日両国の文化交流がさらに広がること、両国の文化財保護事業がともに発展することを希望します。ありがとうございました。

6 活用・普及事業

埋蔵文化財センターは遺跡の発掘調査業務を行っている。また、これらの成果と数多くの文化財を活用して、秋田の歴史・地域の歴史を県民に発信するため活用・普及事業を積極的に推進している。本年度は2回の企画展を基軸に据えた事業展開を進めた。

(1) 平成21年度秋田県埋蔵文化財調査報告会

埋蔵文化財センターでは、県内で発掘調査をおこなった遺跡の調査成果を広く県民に知ってもらい、埋蔵文化財の保護について理解を深めてもらうことを目的に、昭和56年度から毎年報告会を開催している。

今年度は平成22年3月7日(日)、大仙市大曲中央公民館を会場に開催し、県内外から250名の参加者があった。会場では、報告に熱心に耳を傾ける人や質問をする人、オープン・ラボで楽しむ人など、盛況のうちに終了した。

<報告内容>

- 1 世界遺産登録推進事業 新海和広 県教育庁生涯学習課文化財保護室文化財主任
- 2 平成21年度県内発掘調査の概要 児玉準 中央調査班主任専門員(兼)班長
- 3 智者鶴遺跡 加藤竜 調査班文化財主任
- 4 菖蒲崎貝塚 由利本荘市教育委員会 三原裕姫子氏
- 5 小谷地遺跡 村上義直 中央調査班文化財主任
- 6 払田柵跡 高橋学 払田柵跡調査事務所主任学芸主事
- 7 新山遺跡 大仙市教育委員会 齊藤浩志氏
- 8 脇本城跡 男鹿市教育委員会 伊藤直子氏
- 9 湯瀬館跡 山田祐子 調査班文化財主事
- 10 秋田県甘肅省文化交流事業 菊池晋 県教育庁生涯学習課文化財保護室副主幹
高橋和成 調査班文化財主事

<写真パネル展示遺跡> (上記報告遺跡を除く)

埋蔵文化財センター調査分

大沢倉下遺跡(北秋田市)、折戸遺跡(北秋田市)、前谷地遺跡(能代市)

上谷地Ⅱ遺跡(にかほ市)

市町村教育委員会調査分

大鳥井山遺跡(横手市)



山田文化財主事による湯瀬館跡の報告



高橋文化財主事による秋田県甘肅省文化交流事業報告



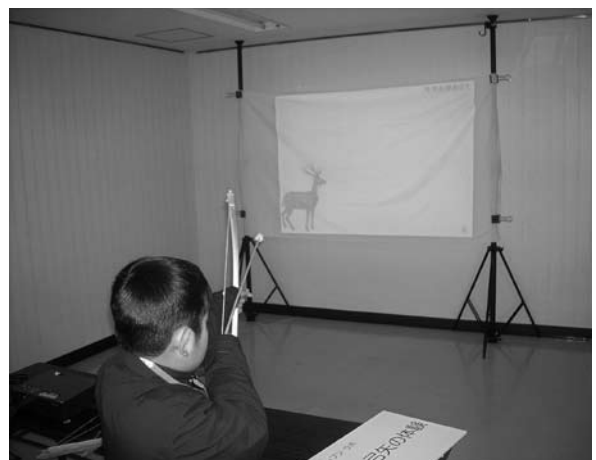
報告に聞き入る参加者



オープン・ラボの様子



オープン・ラボ (石器づくり)



オープン・ラボ (弓矢体験)

(2) 遺跡見学会

埋蔵文化財センターでは、発掘調査の成果を速報的に現地で県民の方々に見ていただくために、発掘調査の期間中の休日を利用して発掘調査現場を公開する遺跡見学会を開催している。現場では出土した遺構や遺物を公開し、担当者が解説を行っている。今年度は鹿角市湯瀬館跡、男鹿市小谷地遺跡で見学会を実施し、延べ146名が遺跡を訪れた。

遺跡名	日時	公開内容	参加者
湯瀬館跡 (鹿角市)	10月10日(土) 13:30～15:30	中世館跡(帯郭、竪穴状遺構、溝状遺構、土坑、焼土遺構、柱穴)他	72名
小谷地遺跡 (男鹿市)	10月17日(土) 13:00～15:00	古代の集落跡(堰、流路跡、足場状遺構、掘立柱建物跡、道路状遺構)他	74名



湯瀬館跡



小谷地遺跡

(3) 学校(教育)サポート

① セカンドスクール

ア) 利用状況

学校	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校	合計
利用件数	21	6	0	9	36
利用人数	530名	247名	0名	179名	956名

イ) 活動の具体例

- 1) 縄文土器や石器に触れて用途などを学ぶ体験
- 2) 火起こしの歴史と工夫を学ぶ体験
- 3) 特別展示室や整理作業室の見学
- 4) 大昔の人々の知恵に学ぶ「石器づくり」
- 5) 古代の装身具について学ぶ「勾玉づくり」



高瀬小学校6年生

ウ) 21年度の成果



協和中学校 1 年生

今年度は新しい試みとして、児童・生徒が本物の縄文土器や石器に触れ、その特徴や用途について考えながら学ぶ体験を取り入れた。土器については文様や形などから、新旧を考察したり、時期による特色を捉えさせたりする活動、石器については形態の特徴や大きさなどから、何に使ったものか、どういう風に使ったものかを考えさせる活動を行った。

② ボランティア・職場体験（インターンシップ）

平成18年度から、セカンドスクールの利用の一環としてボランティア活動や職場体験（インターンシップ）の受け入れを始め、今年度は中学校 1 件 5 名、高校 2 件 4 名の利用があった。

ボランティアは社会貢献や社会参加の活動を通じて豊かな人間性を育むことをねらいとし、職場体験（インターンシップ）は職業に関する理解を深めることを目的として行った。



豊成中学校 1 年生

③ 高校授業サポート

発掘調査に従事し研究することによって得られる専門的な知識は、高校現場での授業にも役立つはずであり、専門的な職員の話は高校生にとっても良い刺激になるだろうという考えから、高校の通常授業に対する支援として今年度、下表の内容で試みに行った。

専門的な内容であったが、実際の遺物にふれながらの授業は分かりやすいと好評を得た。

日 時	学校名・学年	授業科目	授業者・授業テーマ
平成21年 4月17日 12:55 ~ 13:40 13:50 ~ 14:35	県立秋田北高校 2年C組 2年A・B組	日本史B	副主幹 栗澤光男、非常勤職員 大野憲司



泉田教諭による授業（左写真）後、当センターで実物やスライドを用いたサポートを行った。

(4) 主催事業

① 企画展

今年度は2回の企画展を実施した。通算で5回の企画展を実施したことになる。今年度第1回目は「古代城柵と蝦夷」と題して平成21年5月30日～9月27日までの期間で開催した。これに伴う講演会+座談会「古代城柵と蝦夷」を8月30日に大仙市仙北ふれあい文化センターを会場として行い、208名の参加者があった。



第2回目は「亀ヶ岡文化－縄文造形の華－」と題して平成21年11月7日～平成22年2月28日までの期間で開催した。また、本企画展とあわせて、講演会+座談会「亀ヶ岡文化の新たな展望－社会と技術－」を平成22年1月31日に大仙市大曲中央公民館を会場として開催し、146名の参加者があった。



第1回企画展「古代城柵と蝦夷」



第2回企画展「亀ヶ岡文化－縄文造形の華－」

【平成21年度第1回企画展「古代城柵と蝦夷」講演会】

講 師	講演題・内容
秋田県弘田柵跡調査事務所 主任学芸主事 高橋学氏	講演「発掘された弘田柵跡」
東北大学埋蔵文化財調査室 特任准教授 藤沢敦氏	講演「倭と蝦夷と律令国家」
元国立歴史民俗博物館教授 阿部義平氏	講演「弘田柵跡と北域日本史」
座談会司会：東北歴史博物館館長 進藤秋輝氏 パネリスト：秋田大学教授 熊田亮介氏 上記講師3名	「古代城柵と蝦夷を考える」 弘田柵跡と蝦夷をキーワードに秋田の古代史を紐解いた。



講演会場の様子



座談会の様子

【平成21年度第2回企画展講演会+座談会「亀ヶ岡文化の新たな展望－社会と技術－」】

講 師	講演題・内容
秋田県埋蔵文化財センター副主幹 榮一郎	講演「秋田県の亀ヶ岡文化」
八戸市教育委員会文化財課副参事 村木淳氏	講演「亀ヶ岡文化の漆工芸」
早稲田大学文学部教授 高橋龍三郎氏	講演「亀ヶ岡文化に見る縄文社会」
座談会司会：元秋田県立博物館館長 富樫泰時氏 パネリスト：上記講師3名	「亀ヶ岡文化の新たな展望」 社会と技術をキーワードに研究現場の最前線を議論した。



講演会場の様子



座談会の様子

② 古代発見！バスツアー

今回は第1回企画展「古代城柵と蝦夷」にあわせて2回、第2回企画展「亀ヶ岡文化」にあわせて1回の計3回「古代発見！バスツアー」を実施した。

	実施期日	事業内容
第1回	8月3日(月)	<p>概要：企画展「古代城柵と蝦夷」の見学とこれに関連する遺跡を巡見。 ※ガイドは埋蔵文化財センター職員が行った。なお、秋田城跡では担当調査員に解説していただいた。【参加者32名】</p> <p>コース：秋田県庁→秋田城跡（秋田市）→埋蔵文化財センター（大仙市）→払田柵跡（同前）→五輪坂（羽後町）→みはらし荘（同前）→柏原古墳群（同前）→蝦夷塚古墳群（横手市雄物川）→民家苑木戸五郎兵衛村（同前）→秋田県庁</p> <p>※埋蔵文化財センター：企画展「古代城柵と蝦夷」見学と昼食。 ※みはらし荘で横手盆地を眼下に、律令制下の様子を推測（解説）。</p>
第2回	9月4日(金)	<p>概要：企画展「古代城柵と蝦夷」に関連する遺跡などを巡見。 ※ガイドは埋蔵文化財センター職員が行った。なお、脇本城跡と小谷地遺跡では担当調査員に解説していただいた。【参加者33名】</p> <p>コース：秋田県庁→男鹿総合観光案内所（男鹿市）→脇本城跡（同前）→小谷地遺跡（同前）→寒風山（同前）→寒風山ドライブイン→石崎遺跡～中谷地遺跡（五城目町）→岩野山古墳群（同前）→豊川油断（潟上市）→ブルーメッセあきた（同前）→秋田県庁</p> <p>※男鹿総合観光案内所：脇本城跡出土遺物の見学と休憩。 ※寒風山で八郎瀧周辺の古代遺跡群を展望（解説）。</p>
第3回	10月16日(金)	<p>概要：企画展「亀ヶ岡文化」に関連する遺跡などを巡見する。 ※ガイドは埋蔵文化財センター職員が行った。なお、北秋田市出土品収蔵庫の展示遺物について同市埋蔵文化財担当職員に解説していただいた。【参加者25名】</p> <p>コース：秋田県庁→道の駅かみこあに（上小阿仁村）→北秋田市出土品収蔵庫（北秋田市森吉）→a 森吉山ダム広報館（同前）→森吉山ダム大橋（同前）→b 森吉山ダム広報館（同前）→白坂遺跡（同前）→狐岱遺跡（同前）→伊勢堂岱遺跡（北秋田市鷹巣）→道の駅かみこあに（上小阿仁村）→秋田県庁</p> <p>※a 森吉山ダム広報館：森吉山ダム見学（広報館職員が案内）と休憩。 ※b 森吉山ダム広報館：森吉山ダム関連遺跡出土遺物の見学と昼食。</p>



第1回：「払田柵跡外郭南門」



第2回：「小谷地遺跡調査説明」



第3回：「白坂遺跡の笑う岩偶」

3回実施した「古代発見！バスツアー」は、いずれも好評で、参加者からは「大変に楽しいツアーであり、こうした企画には今後もぜひ参加したい」と期待する声が多くあった。

③ 縄文発見・ワクワク体験

主に県内の小・中・高生と保護者を対象に、勾玉づくりや石器づくりなどにより、原始・古代への夢を育んでもらい、昔の人々の知恵と工夫に新たな発見を見いだす機会を提供している事業である。今年度は7月28日から30日までの3日間、埋蔵文化財センターを会場に幼児から保護者まで延べ69名が参加して行われた。

() 内は参加者数

7月	9:30～11:30	
28日(火)	勾玉づくり (14)	石器づくり (8)
29日(水)	勾玉づくり (22)	石器づくり (7)
30日(木)	勾玉づくり (10)	石器づくり (8)

今年度から埋蔵文化財センターの単独事業となり、人員も資料管理活用班のみで分担することにした。その関係でコースをしばり、各日勾玉づくりと石器づくりの2つの体験を実施した。また、勾玉づくりについては材料費を徴収することにし、材料の準備のため全体の広報開始及び締め切り日を例年より1週間早めて参加人数を確定した。コースが限られた分、各体験とも少人数での開催となったが、一人一人に製作指導の手が行き届いたので、参加者の満足度は高かったようである。



勾玉づくり①



勾玉づくり②



石器づくり①



石器づくり②

④ ふるさと考古学セミナー

第1回 「秋田城と払田柵跡」

期 日：平成21年7月11日（土）

会 場：秋田県生活創造ゆとりセンター遊学舎（秋田市）

参加者：102名

講 師：伊藤武士（秋田城跡調査事務所主席主査）

高橋 学（払田柵跡調査事務所主任学芸主事）

今年度第1回の企画展テーマ『古代城柵と蝦夷』に合わせ、秋田県内の二大城柵の発掘担当者を講師に、これまでの調査成果からわかる県内城柵の位置づけと評価を解説した。また、講座の後に司会を交えた二講師による座談会をおこなった。会は概ね好評を得たが、会場からは「東北の古代城柵が河川を北にして立地するのは何故か？」など城柵の本質に関わる専門的な質問もなされた。



遊学舎での第1回セミナー

第2回 「能代・山本地方の古代」

期 日：平成21年8月22日（土）

会 場：能代市中央公民館

参加者：51名

講 師：小林 克（埋蔵文化財センター主任専門員）

榎本剛治（北秋田市教育委員会主任学芸員）

8月30日に予定した講演会+座談会『古代城柵と蝦夷』に関して、秋田県埋蔵文化財センターが過去に発掘調査した能代・山本地方の遺跡から、古代関係の遺跡を取り上げ、その成果を発表した。また、近年、注目を集めた北秋田市胡桃館遺跡の調査成果についても、改めて発掘担当者から解説した。



第3回セミナーの出土品解説

第3回 「堀ノ内遺跡の発掘調査」

期 日：平成21年10月24日（土）

会 場：秋田県立近代美術館

参加者：28名

講 師：加藤朋夏（県文化財保護室文化財主任）

今年度第2回の企画展『亀ヶ岡文化—縄文造形の華—』に合わせ、横手盆地で発掘調査された亀ヶ岡文化の遺跡から最近の調査事例、湯沢市堀ノ内遺跡の発掘調査成果を担当者が解説した。セミナー当日には企画展のプレ展示として、会場となった近代美術館の“ふれんどりーギャラリー”に堀ノ内遺跡の出土品を陳列していたが、講座の後、それら出土品を実際に見ながらの説明もおこなった。

⑤ 出張展示

出張展示は、埋蔵文化財センターが実施する企画展をより広く県民の方々に見学していただくために、他の公共機関等と連携して実施するものである。今年度は平成21年4月30日～7月5日の日程で、平成20年度第2回企画展「秋田の狩猟文化」の内容を再構成して、北秋田市教育委員会主催で北秋田市ファルコンにて開催した。また、平成21年10月10日～11月1日の日程で、今年度第2回企画展の内容の一部を秋田県立近代美術館ふれんどりーギャラリーでプレ展示した。平成21年12月1日～平成22年1月14日まで秋田県庁正庁前渡り廊下にて、同様に第2回企画展の内容に基づいた写真パネル展を開催した。



北秋田市ファルコン



秋田県庁正庁前渡り廊下

(5) 共催・機関連携等事業

① 発掘！あきた考古ゼミ

生涯学習センターとの機関連携事業である。県の教育機関が連携し、相互に特徴を活かすことにより活性化を図ることをめざした。今年度は能代市立図書館を会場とし、米代川流域に題材を求めた講座を4回連続で開催したが、県北部を中心に多くの受講者を得ることができた。

回	日時	講演テーマ	講師
第1回	10月2日(金) 10:00～11:30	環状列石をめぐる人々	中央調査班 主任学芸主事 谷地 薫
第2回	10月9日(金) 10:00～11:30	縄文時代の水場遺構	中央調査班 文化財主任 村上義直
第3回	10月16日(金) 10:00～11:30	米代川下流域における古代集落の実態	払田柵跡調査事務所 主任学芸主事 高橋 学
第4回	10月23日(金) 10:00～11:30	生産遺跡から見た米代川流域	副所長 櫻田 隆

② 土器に生ける山野草展

県立農業科学館との共催で10月23日から11月8日まで開催した。今年度は縄文土器のほか、弥生時代の土器や奈良・平安時代の須恵器も加えた12点を展出し、各時代に関連するパネル資料も展示した。東大曲小学校生け花クラブの児童も参加して生けられた山野草に、多くの見学者から「昔の土器との組み合わせがよい」などの感想が寄せられた。



農業科学館展示会場

③ 児童会館「歴史クラブ」

秋田県児童会館（NPO法人あきた子どもネット）が「秋田の歴史を学び、地元の魅力を再発見する」ことを目的に関係機関と連携して行った「歴史クラブ」の5回の講座の内、第1回の「旧石器時代から縄文時代の暮らし」で石器についての学習と石器づくり体験を、第2回の「縄文時代の暮らし」で縄文土器についての学習と火起こし体験をそれぞれ実施した。



「歴史クラブ」石器づくり

④ 県庁出前講座

今年度は2件の要請があった。概略は次の通りである。

月 日	要 請 団 体	内 容	番号	講 師	会 場
10月8日	秋田市中通地区 高齢者学級	出土品から学ぶ秋田の 歴史 【参加者20名】	183	文化財主任 吉川耕太郎	秋田市中通児童館
11月26日	湯沢生涯学習センター 「ゆざわの歴史散歩」	出土品から学ぶ秋田の 歴史 【参加者14名】	189	副主幹 栗澤光男	湯沢生涯学習センター

1件目は秋田市の中央公民館が主催している高齢者の社会参加を目的とした学習会で、秋田市全体の高齢者を対象として開催している。2件目は、湯沢生涯学習センターが主催する一般市民を対象とした「文化財を訪ね、郷土の歴史を学ぶ」講座である。いずれの講座でも参加者の興味関心が高く、熱心に傾聴し、質問も多数寄せられた。

(6) その他

① 所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸出実績

年 度	19年度	20年度	21年度
所蔵資料貸出数	38件	23件	20件
キット貸出数	8件	8件	4件
ビデオ貸出数	1件	0件	0件
火起こし貸出数	5件	3件	1件

※所蔵資料貸出内訳

資 料 種 別	使用目的（複数利用含む）		
	展示公開	書籍等掲載	研究他
遺 跡 出 土 品	6件	2件	2件
フィルム写真データ	1件	1件	0件
デジタル写真データ	0件	7件	1件
そ の 他	0件	2件	0件

② センターの開放と展示

見学者によりよく身近に埋蔵文化財を理解していただくために「いつでもギャラリートーク」を行っている。これは、平日の開館時間に来所された見学者には、要望に応じて専門職員がいつでも展示品の解説を行うというものである。さらに一部の遺物については、展示ケースを開けて実際に触れていただき、展示品を「見る」だけでなく、じかに「感じて」いただけるようにしている。ギャラリートークの所要時間は見学者の希望に合わせて30～60分程度である。今年度は見学者が増え、解説の希望も多かった。

	開館時間	見学可能箇所
平 日	8:30～17:00	特別展示室・第1収蔵庫（※）・整理収蔵庫（※）
土・日・祝日	9:00～16:00	特別展示室

休館日：1月1日～3日、12月29日～31日、1月11日（成人の日）
2月11日（建国記念の日）、3月22日（春分の日振替）
※は職員の案内によって可能

(7) 研究論文・発表等

【研究論文・研究発表等】

(平成21年5月)

〈発表〉小林 克 「円筒土器文化の墓制」『東北縄文前期の集落と墓制』東北芸術工科大学
東北文化研究センター

(平成21年7月)

〈発表〉五十嵐一治 「横手盆地への技術移入と継承－植物遺体からの検討－」『考古学からみた
職能民』第3回「平泉とは何か」研究会 平泉町役場

〈発表〉高橋 学 「北東北の囲郭集落は出羽国の城柵をモデルに成立した」『考古学からみた職能民』 第3回「平泉とは何か」研究会 平泉町役場

(平成21年10月)

〈発表〉柴田陽一郎 「日本海域の土器製塩—その系譜と伝播を探る— 東北地方の土器製塩」環日本海文化交流史調査研究集会(財)石川県埋蔵文化財センター

(平成21年11月)

〈発表〉吉川耕太郎 「東北日本の小規模黒曜石原産地の利用と拡散」『公開シンポジウム予稿集 黒曜石が開く人類社会の交流』 首都大学東京

〈発表〉吉川耕太郎 「各地における調査と研究：東北地方」『石器文化研究』第15号 石器文化研究

〈論文〉吉川耕太郎 「上岩川遺跡群からみた縄文時代の石刃生産とその運用に関する予察」『秋田考古学』第53号 秋田考古学協会

(平成21年11月)

〈論文〉高橋 学 「秋田・払田柵跡」「秋田・払田柵跡(第二六号)」『木簡研究』31 木簡学会

〈論文〉高橋 学 「一九〇二年に出土した文字資料—秋田県払田柵跡の柵木—」『木簡研究』31 木簡学会

(平成22年1月)

〈発表〉小林 克 「円筒土器文化の盛土遺構」『三内丸山遺跡などの盛土遺構の研究』公開研究会 三内丸山遺跡縄文時遊館

(平成22年2月)

〈事例報告〉高橋 学・五十嵐一治 「払田柵跡 平成21年度の調査概報」『第36回古代城柵官衙遺跡検討会』東北歴史博物館

(平成22年3月)

〈報告〉柴田陽一郎 「日本海域の土器製塩—その系譜と伝播を探る— 東北地方の土器製塩」『石川県埋蔵文化財情報』第23号(財)石川県埋蔵文化財センター

〈論文〉小林 克 「環状列石と建物遺構」菊池徹夫編『比較考古学の新天地』

【講座等】

(平成21年6月)

児玉 準 「男鹿半島の考古ロマン～原始・古代の風景と人々の暮らし～」秋田県生涯学習センター 美の国カレッジ 男鹿半島学へのいざない男鹿キャンパス男鹿市中央公民館

高橋 学 「古代城柵と秋田～払田柵を解き明かす～」美の国カレッジ『あきた学総合コース』あきた学専門講座あきた文化学Ⅰ 秋田県生涯学習センター

高橋 学 「「払田柵」なんの柵」『秋田の史跡を学ぶ会』秋田市東部公民館

高橋 学 「払田柵の謎にせまる」『一灯会』定例研修会 大仙市勤労青少年ホーム

(平成21年8月)

- 児玉 準 「発掘調査の実際 調査の手順～遺構・遺物の種類と調査方法～」(社)秋田県シルバー人材センター連合会 平成21年度 シニアワークプログラム 北秋田市中央公民館分館
- 利部 修 「整理作業の実際 調査の手順～遺構・遺物の種類と調査方法～」
(社)秋田県シルバー人材センター連合会 平成21年度 シニアワークプログラム北秋田市中央公民館分館
- 谷地 薫 「桂の沢遺跡」平成21年度大湯ストーンサークル館講座「縄文に学ぶ」第1回 大湯ストーンサークル館
(平成21年10月)
- 高橋 学 「雄勝城考」－考古学による発掘・研究で明らかになってきたこと－ 『第19回れきみん文化講演会』羽後町コミュニティセンター
- 小林 克 「趣旨説明」『シンポジウムⅡ－東北縄文社会と生態系史』日本考古学協会2009年度山形大会
(平成21年12月)
- 高橋 学 「払田柵跡関連遺跡の調査速報－雄物川町造山地区の発掘調査－」『造山地区の歴史を語る会』横手市雄物川町造山公民館
- 高橋 学 「古代から中世にいたる横手盆地の歴史的背景」『平成21年度雄物川郷土資料館第2回特別展 大鳥井山遺跡速報展』講座 横手市雄物川生涯学習センター
- 小林 克 「環状列石と建物遺構」平成21年度大湯ストーンサークル館講座「縄文に学ぶ」第2回 大湯ストーンサークル館
(平成22年1月)
- 小林 克 「環状列石」あおもり縄文フォーラム 有楽町マリオン
(平成22年2月)
- 五十嵐一治 「払田柵跡の調査の歴史」『花館の会歴史講座』大仙市花館公民館
- 高橋 学 「造山遺跡から古代横手盆地の実像に迫る」『雄物川まちづくり事業歴史講演会』横手市雄物川町生涯学習センター
- 高橋 学 「古代陸奥国と出羽国の方形と円形－その形の違いは何か－」『第7回安倍氏の柵シンポジウム』平成21年度町民総合大学文化遺産講座 岩手県金ヶ崎町中央生涯教育センター
(平成22年3月)
- 高橋 学 「秋田県内における鉄の生産と加工」秋田地名研究会シンポジウム『鉄－地名ならびに農具』基調講演 あきた文学資料館
- 高橋 学 「考古学からみる神岡地域の古代～中世社会」『神岡町おもしろ講座』大仙市かみおか嶽雄館
- 高橋 学 「払田柵跡と大鳥井山遺跡」『国史跡へ大鳥井山遺跡』公開講座 平成22年3月13日 横手ふれあいセンターかまくら館

7 運営協議会

第1回

日 時：平成21年7月8日（水）

委 員：岩見委員長、佐藤副委員長、齋藤委員、石井委員、須田委員、小林委員、照内委員、藪田委員

事務局：佐藤所長、藤肥副所長、櫻田副所長、石川総務班長、利部調査班長、児玉中央調査班長、小林資料管理活用班長、小徳学芸主事

今年度第1回の運営協議会を上記の日程、メンバーで開催した。

はじめに所長から組織構成と各班の役割、そして前年度の事業概要についての説明があり、次いで委員、出席職員の紹介があって、岩見委員、佐藤委員が委員長、副委員長として選出された。その後、今年度の発掘調査、活用などの事業計画の説明があり、協議に移った後は、発掘調査での作業員募集の問題や、遺跡活用に絡んだ地域観光の課題、活用イベントの周知の問題や地域での出張展示などについて、委員から具体的な提言・評価があった。

第2回

日 時：平成22年2月25日（木）

委 員：岩見委員長、佐藤副委員長、齋藤委員、須田委員、小林委員、照内委員、藪田委員、高橋委員

事務局：佐藤所長、藤肥副所長、櫻田副所長、石川総務班長、利部調査班長、児玉中央調査班長、小林資料管理活用班長、小徳学芸主事

今年度第2回の運営協議会を上記の日程、メンバーで開催した。

はじめに佐藤所長から、今年度の年間入館者数に関し、前期については昨年度実績を大きく越えて目標を達成することができたこと、企画展・講演会の実施にあたっては県外を含め多くの参加者を得ることができたこと、発掘現場の視察では県議会学術教育公安委員会をはじめとした機関の視察があったこと、3回実施した古代発見！バスツアーでは定員を超える応募がありいずれも盛会のうちに終わることができたことなどが報告された。

その後、平成21年度の調査について、利部、児玉両班長から、それぞれの担当班の調査の概要を報告した。次いで、平成21年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会について、小林資料管理活用班長がその計画概要を説明した。また、平成21年度の活用事業の概要を同じく小林班長が報告した。

センターでの活用事業について、委員からは地域振興のイベント情報として積極的に発信すべきこと、その一環として有料で遺跡観光ガイドをする案内人養成の取り組みや、センター業務の広報用ビデオをインターネット上で公開することが考えられるとの意見があった。案内人の養成については実際に取り組んでいる委員から、いずれの遺跡でも後進育成が課題となっていること、また、有料化に関連してはプログラム開発など、従来のボランティア的発想からの大きな意識転換が必要であることなどの意見が提出された。また、発掘調査の成果を常設で展示公開する県立の歴史博物館を建設することの必要性が、奈良県立橿原考古学研究所附属博物館、同県立万葉文化館、大阪府立弥生文化博物館、群馬県立自然史博物館など、全国各地の事例についての資料が配布され、示された。

V 平成21年度研修事業

1 教職初任者研修

実施日：平成21年7月2日 研修者：阿部亮介・大高静香・條 沙織・吉川 孝（引率）

2 教職10年経験者研修

①実施日：平成21年8月5・6日 研修者：佐藤 智（秋田県立横手高校）

②実施日：平成21年8月17～19日 研修者：伊藤禎之（由利本荘市立尾崎小学校）

3 教員長期社会体験研修

実施日：平成21年4月1日～9月30日

4 大曲養護学校実習

①実施日：平成21年6月1日～12日、7月27日～8月7日 研修者：高橋郁真

②実施日：平成22年1月4日～8日 研修者：高貝勇人

5 職場体験

①実施日：平成21年6月23日～25日 研修者：伊藤大貴・藤原立己・久米恵莉子
(県立大曲農業高校)

②実施日：平成21年7月22日～23日 研修者：笠原大樹（県立能代工業高校）

③実施日：平成21年8月26日～28日 研修者：加賀谷堯（県立五城目高校）

④実施日：平成22年1月6日 研修者：渡邊大治郎・渡邊魁斗・千葉航大・
藤原洸哉（大仙市立豊成中学校）

6 博物館実習

①実施日：平成21年8月17日～21日 研修者：高貝沙希・伊藤 禎（東北学院大学）

②実施日：平成21年8月17日～9月1日 研修者：飛澤祐梨（群馬県立女子大学）

7 職員技術研修会

実施日：平成21年9月18日 研修者：秋田県埋蔵文化財センター職員、楊 芳（甘肅省交流員）、
石川英樹（男鹿北中学校）、加藤朋夏（文化財保護室）、今野寛子・柿崎吉寛（湯沢市教育委員会）

当センターで行った研修は以上のとおりである。センター職員の資質向上を目指した職員技術研修会以外は、センター以外の方々に対応する研修事業が殆どである。最近は、初任者研修や10年研修等の教職関連研修や学芸員取得のための博物館実習施設としての利用度も高まってきている。本年度は、シルバー人材センター連合会主催「発掘調査作業講習」の依頼があり、県民対象の技能講習を2日間にわたって行っており、新たな研修スタイルにも対応している。

VI 職員名簿

職 名	氏 名
所 長	佐 藤 了
副 所 長	藤 肥 良 清
副 所 長	櫻 田 隆

総務班

主任専門員（兼）班長	石 川 清 二
主 査	久 米 保
主 任	高 村 知恵子
非常勤職員	高 橋 明 男

調査班

主任専門員（兼）班長	利 部 修
副 主 幹	柴 田 陽一郎
（兼）主任学芸主事	高 橋 学
学芸主事	五十嵐 一 治
学芸主事	山 村 剛
文化財主任	加 藤 竜
文化財主任	菅 野 美香子
文化財主事	山 田 祐 子
文化財主事	高 橋 和 成
臨時的任用職員（調査・研究員）	深 沢 恵里子
臨時的任用職員（調査・研究員）	巴 亜 子
臨時的任用職員（調査・研究員）	菅 原 博 志
臨時的任用職員（調査・研究員）	草 薨 裕太郎

中央調査班

主任専門員（兼）班長	児 玉 準
主任専門員	時 田 慎 一
副 主 幹	榮 一 郎
主任学芸主事	谷 地 薫
学芸主事	山 田 徳 道
学芸主事	築 瀬 圭 二
学芸主事	袴 田 道 郎
文化財主任	村 上 義 直
臨時的任用職員（調査・研究員）	長谷川 幹 子
臨時的任用職員（調査・研究員）	相 馬 美紗子
臨時的任用職員（調査・研究員）	藤 本 玲 子

資料管理活用班

主任専門員（兼）班長	小 林 克
副 主 幹	栗 澤 光 男
学芸主事	小 徳 晶
文化財主任	吉 川 耕太郎
非常勤職員	大 野 憲 司

秋田県埋蔵文化財センター年報28

(平成21年度)

発 行 平成22年3月
秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802 大仙市払田字牛嶋20番地
電 話 (0187) 69-3331
F A X (0187) 69-3330
[URL] [http://www.pref.akita.lg.jp/
gakusyu/maibun_hp/index2.htm](http://www.pref.akita.lg.jp/gakusyu/maibun_hp/index2.htm)

印 刷 株式会社三森印刷

